



高橋余一の「生活絵巻」



上の絵に書かれた文章

農耕に馬を

使っていた

当時の田園は

ミレーでなくとも

一筆

刷いて見たくなる

つつましく、そして

平和な風景が

随所に

散見された

36 農耕馬

昭和30年代頃までは農作業のための牛や馬を飼っていて、ハタラク
ウマやハタラクウシと呼んでいました。

絵巻には馬にまたがる親子が描かれ、子どもが隣の馬を眺めていま
す。馬の背には、草刈り道具の入ったカゴと刈り取った草が乗ってい
て、農作業の帰りの一コマとされています。

馬は二、三軒に一軒の割合で飼われていました。馬は母屋の戸口を
入ったすぐ横の馬屋うまやと呼ばれる空間で飼いました。

馬は長野の木曽福島の馬市などで二歳の馬を買ってきていました。
茶色の馬はカゲウマやクリゲ、黒色はアオ、白色はシロなどと呼ばまし
た。馬屋には小山観音からもらってきたお札をまつるのが習わしでした。

農作業が終わると馬は庭先で、馬ダライにはった湯で足を洗い、肩
に湯を注いでから馬屋へ入れました。